

平成30年度広島城北中・高等学校経営計画

1 建学の精神

英才教育の徹底
道徳教育の徹底
錬身教育の徹底

日本のみならず海外をも視野に入れた大学進学をめざす中高一貫教育の推進
個性が豊かで、自分や人を大切にする姿勢を持つ良識ある青少年の育成
質実剛健にして、心身ともに豊かさを自ら育もうとする青少年の育成

2 校訓

「学んで厭わず、教えて倦まず」

3 ミッション

グローバル・マインドを持ち、21世紀のリーダーとして国際社会の平和と発展に寄与する人材を育成する。

4 ビジョン（使命の追及を通じて実現しようとする自校の将来像）

- ① 異文化を理解するとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- ② 授業におけるICT機器の活用や、キャリア教育の視点をベースに置いた教育活動を推進する。
- ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
- ④ 中高一貫教育の強みを全面に押し出し、6年間の学習を系統的に推進する。
- ⑤ すべての教育活動を通して、生徒の持つ可能性を最大限に引き出す。

5 環境分析

(1) 本校を取り巻く状況と課題

学校の外部環境	学校の内部環境
<p>機会 (O)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 私立中高一貫の男子校として一定の評価がある。 ② 「面倒見の良い学校」として評価がある。 ③ ICT機器を活用した授業実践に、校外から関心を持たれている。 ④ PTA・同窓会などが協力的である。 ⑤ 連携に協力的な大学・企業がある。 ⑥ 英語運用能力への関心が高まっている。 	<p>強み (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事に積極的に参加する生徒が多い。 ② 学業と部活動の両立を図り、未来を切り開く生徒がいる。 ③ 生徒の持つ学力を細かく分析することで、多くの生徒の学力が伸びる可能性を秘めている。 ④ 外国人教師が多く、英語教育をはじめ国際理解教育を推進している。 ⑤ 海外研修プログラムが充実している。 ⑥ 教育施設が充実している。
<p>脅威 (T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少子化による受験人口の減少 ② 公立の中高一貫校の新設 ③ 校外での生徒のマナーについて指摘を受けることがある。 	<p>弱み (W)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中・高一貫教育の強みが十分に発揮できていない。 ② 学習習慣の定着が課題となる生徒がいる。 ③ 中学校の志願者数が減少傾向にある。 ④ 高等学校の志願者数が伸び悩んでいる。 ⑤ 広島大学の合格者数が少ない。 ⑥ 組織的教科教育力の向上に向けた取り組みが遅れている。

6 目標の設定

1 グローバル・マインドを育み、世界の動向や日本の現状を客観的に観察し、課題解決に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。							
達成目標	評価指標		実績値	目標値		担当	
			29年度	30年度	31年度		32年度
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に特別活動に参加する。	海外短期研修の応募者数	オーストラリア	41人	40人	40人	40人	国際部
		イギリス	18人	25人	25人	25人	
		韓国	13人	なし	20人	20人	
		インドネシア	20人	30人	35人	35人	
	インターナショナルスクールとの交流		2回	3回	3回	3回	
	ゲストスピーカー講演会	中2Discovery	5回	5回	5回	5回	
		全学年	0回	1回	2回	2回	
	国際関係LHR(中1～中3)		0回	4回	5回	5回	
	NEWSLETTER(情報雑誌)発行		3回	4回	5回	5回	
	NEWSLETTER 編集に関わる生徒数		17人	20人	25人	25人	
ホスト・ファミリーの受入や、異文化理解を促進し、積極的に体感できる機会に参加する。	受入プログラム		113家族	50家族	50家族	50家族	
	インターナショナルフレンドシップキャンプ		50人	50人	50人	50人	
	外部のイベント(スピーチコンテスト等)		18人	25人	30人	35人	
	Year 留学・Term 留学		0人	0人	2人	2人	
	インターナショナルクラブ加入者数(短期研修参加者含む)		56人	80人	80人	80人	
	韓国語講座参加者数		18人	25人	25人	25人	

2 中高一貫教育の強みを整理するなかで、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。									
達成目標	評価指標		実績値	目標値			担当		
			29年度	30年度	31年度	32年度			
生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指すとともに、城北健男児の自覚を持ち、他者を思いやる心を育てる。	地域のボランティア活動への参加		2回	2回	3回	3回	生徒部		
	登下校時マナーアップへの呼びかけ		4回	3回	4回	4回			
	先進的な他校生徒会執行部との交流		0回	1回	1回	1回			
	中高合同で行う校内行事の検討		0回	1回	2回	3回			
	高校生による中学生への意識啓発活動		1回	1回	2回	2回			
系統立てた学びによる、学習意欲等の伸び及び年間授業時数	生徒の授業満足度		80%	80%	80%	80%	教務部		
	シラバス作成の進捗管理		進捗50%	進捗100%	進捗100%	進捗100%			
	年間授業時数(1単位当たり)		+0時間	+1時間	+1時間	+1時間			
基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。	家庭学習時間(トータルとして)		中1	平日	1.8	2.0	2.0	2.0	教務部
				休日	3.3	3.0	3.0	3.0	
			中2	平日	1.6	2.0	2.0	2.0	
				休日	1.9	3.0	3.0	3.0	
			中3	平日	0.9	2.0	2.0	2.0	
				休日	1.4	3.0	3.0	3.0	
			高1	平日	2.0	2.0	2.0	2.0	
				休日	3.0	3.0	3.0	3.0	
			高2	平日	2.5	3.0	3.0	3.0	
				休日	3.5	4.0	4.0	4.0	
			高3	平日	5.4	5.0	5.0	5.0	
				休日	6.8	7.0	7.0	7.0	
GTECの目標点(実績値は訂前の総点による。) アドバンス:960満点(対象:高2・高3)	高2 GTEC アドバンス		スコア520以上	44人	70人	90人	90	国際部	
	高1 GTEC ベーシック		スコア520以上	38人	50人	70人	80		

ベーシック : 810 満点 (対象 : 中3・高1) コア : 630 満点 (対象 : 中1・中2)	中3 GTEC ベーシック	-	-	70 人	80 人	80	
	中2 GTEC コア	-	-	80 人	90 人	90	
進研模試目標偏差値	進研模試 (高1・1月)	偏差値 70 以上	19 人	20 人	25 人	30 人	進路指導部
		偏差値 60 以上	70 人	70 人	80 人	90 人	
	進研模試 (高2・1月)	偏差値 70 以上	7 人	20 人	25 人	30 人	
		偏差値 60 以上	36 人	70 人	80 人	90 人	
旧帝大等の難関大10名、広島大20名、 早慶上理30名、関関同立100名以上が 合格する。	大学合格者数	旧帝大クラス	7 人	8 人	9 人	10 人	
		広大	12 人	15 人	20 人	20 人	
		早慶上理	19 人	20 人	21 人	22 人	
		関関同立	122 人	100 人	100 人	110 人	
城北の魅力をお機会をとらえ積極的に情報 発信する。	受験者への興味・関心の喚起 (受験者数)	6年制コース	556 人	600 人	620 人	630 人	入試広報部
		3年制コース	85 人	100 人	120 人	140 人	

7 目標達成のための手立て (「戦略」)

1 グローバル・マインドを育み、世界の動向や日本の現状を客観的に観察し、21世紀の課題解決に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、 積極的に特別活動に参加する。 ホストファミリーの受け入れや異文化理解 を促進し、積極的に特別活動に参加する。	2019年度における海外短期プログラム実施に関わ る交流高との費用負担・条件を整備する。	初めての取組であるキャリア教育の視点を取り入れた 海外研修の充実を図る。	国際部
	グローバル・キャリア・プログラムの内容を改善し、 生徒の興味・関心を喚起する。	城北海外研修プログラムのグランド・デザインの内容 をグレードアップするための検証を行う。	
	国際ニュースレターを活用して、各国の文化を紹介す るとともに、ホストファミリーの公募を推進する。	すべての国際交流プログラムをPDCAサイクルの視点か ら再度検証を深める。	
基本的な生活習慣を確立する。	個人面談やLHRなどを通じて望ましい生活習慣の確 立を図る。	起床時刻、帰宅時刻、学習開始時刻の定着度を検証し、 次年度に向けての課題解決の手立てを検討する。	生徒部 総務部
	校舎内での右側通行を徹底するとともに授業や登下校	城北健男児として自覚を持ち、プライドを持った学校	学年会

	時のマナー意識を育てる。	生活を送れる手立てを構築する。	
	LHR・道徳・個人面談・三者懇談等で相談体制を確立する。	生活や進路にかかわる対話の機会を恒常的に確保する。年3回の三者懇談会を統一して行う。	
	様々な課題を抱える生徒の支援について学年会とカウンセラーとのミーティングを学期毎に実施する。	校内相談体制の整備及び、課題を抱える生徒の状況を早い段階で共有するシステムづくりを行う。	
生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指すとともに、城北健男児の自覚を持ち、他者を思いやる心を育てる。	帰属意識を高める行事を具体化する。	帰属意識を高めるために実行した行事を検証する。	総務部 生徒部
	中高合同運動会の実施について条件整備を進める。	学校行事への保護者及び教職員の参加について、PTAとも連携し、課題の検証を行う。	
生徒の興味・関心を世界の動向に向けさせるとともに、積極的に異文化交流に関する課外活動に参加する態度を育てる。	海外短期研修・海外修学旅行のグランドデザインを作成・実施する。	「国際部グローバルデザイン」を完成する。	国際部

2 中高一貫教育の強みを全面に押しだし、6年間の学習を系統的に推進する。			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。 (中1から高3までの各到達目標を明確にする。)	「資質・能力」の三つの柱(三要素)に基づく評価規準を策定し、次年度のシラバスを年度内に完成させる。	学習指導要領に基づき、多面的評価を実践できる教育課程の在り方の検討に入る。	教務部
	標準単位数に応じた年間標準授業時数の確保へむけて年間行事の精選を行う。	長期休業中の補習に頼ることなく授業計画通りに授業を進めるための手立てを検討する。	教務部 生徒部
	放課後の学習時間の確保、学習場所の整備等に関する具体的な方策を構築する。	生徒が主体的な学習をすすめるようICT機器を活用する学習環境や、自習室の整備等を行う。	教務部 生徒部 総務部
旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。	個人面談・三者懇談・LHR等を通じて生徒個々の学習意欲を高めるとともに、学力向上にむけた具体的な学習方法について指導助言する。	既卒生に対しては、旧担任等を中心に、継続的な激励を行い、進路が確定するまで支援する。	進路指導部 学年会

3 高大接続改革を先取りした校内体制の構築を図る。			
達成目標	本年度行動計画	期行動計画	担当部等
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	I C T機器を活用した授業実践のための研修会を組織的・計画的に行う。	I C T機器を活用した授業実践の効果検証を行う。	教務部
	授業改善研修を組織的・計画的に行う。	授業改善の効果検証を行う。	
	I C T機器を利用した学習支援・生徒把握を推進する。	生徒の学習や活動履歴蓄積のために I C T機器を活用するとともに、校外への情報発信を行う。	
	広く校外にも参加を呼びかけ、公開研究授業を行う。	公開授業研究会を定例化する。	
新学習指導要領に対応した教育課程を作成する。	平成31年度入学生の教育課程表を作成する。	新しく編成した教育課程に基づく教育活動を先行実施し、定期的な振り返りの中で課題の検証を行う。	
地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。	中学生、高校生が協力して地域に貢献できるボランティア活動を実施する。	生徒を主体とした学校行事の検証を行い、地域に愛される学校になるための検討を重ねる。	生徒部
学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の持つ魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。	ホームページの更新頻度を週5回以上とし、教育活動を校外に発信する。	魅力あるコンテンツとして最新の学校情報をアップすることでホームページへのアクセスを増やす。	総務部
	定期的に広報誌を発行し、教育活動の広報を校外へも行う。	本校の教育活動が校外で話題として取り上げられるよう広報誌の発行を通して本校の認知度を向上させる。	入試広報部